

## 大学における知的障害青年の学びと課題

企画者	田中 良三（愛知みずほ短期大学・愛知県立大学名誉教授）
司会者	湯浅 恭正（広島都市学園大学）
話題提供者	京 俊輔（島根大学） 赤木和重（神戸大学） 寺谷直輝（愛知県立大学客員共同研究員）
指定討論者	田中良三（愛知みずほ短期大学・愛知県立大学名誉教授）

KEY WORDS: 知的障害者 大学教育 生涯学習

### 【企画趣旨】

文部科学省は、大学卒業後の障害者の学びに関する有識者会議報告書（「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―（報告）」2019 年 3 月）において、初めて知的障害者の大学の受け入れについて言及し政策課題とした。このことに関して、わが国では、知的障害者等を対象にオープンカレッジや「履修証明制度」を活用して大学教育を一部開放する取り組みや、全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会による研究運動として取組まれている教育実践がある。

本シンポジウムでは、現在わが国で取り組まれている知的障害者等を対象とした多様な大学教育実践の現状を共有し、今後の課題について論議する。

### 【話題提供 1】

#### 「オープンカレッジの取り組み」 京俊輔

島根大学では、2008 年度から大学のキャンパスを活用して取り組むオープンカレッジに取り組んでいる。企画運営は大学生が担い、2 年間にわたり地域の知的障害者に対する教育の機会を提供している。オープンカレッジでは、受講生一人ひとりに大学生らによる学習ボランティアが付き、学びをサポートしている。受講生は講義等の受講を通じて学ぶだけでなく、受講生同士の交流、大学生との交流を通じて社会的なスキルなども学んでいる。

本シンポジウムのテーマ「大学における知的障害青年の学びと課題」に基づき、この 13 年の取り組みを報告するとともに、その実践のなかで確認してきた知的障害者の学び、運営上の課題を報告する。一方で昨今のコロナ禍でオープンカレッジの実施方法、知的障害者の学びの可能性が大きく変わってきている。報告では、現在直面しているオープンカレッジ実践および継続の課題についても触れる。

### 【話題提供 2】

#### 「大学における履修証明制度を活用した知的障害青年の学び」 赤木和重

神戸大学大学院人間発達環境学研究科では、2019 年度から、KUPI(Kobe University Program for Inclusion の略。学ぶ楽しみ発見プログラム)プログラムを推進するにあたって重要なことの 1 つは、知的障害のある青年が、大学で学ぶ制度的基盤を整備することである。2019 年度においては、既存の聴講生制度を用いてプログラムを実施した。しかし、聴講生制度を用いた場合、正規の授業のみ参加できるという制限があり、KUPI 独自に実施するプログラムは、大学の教育制度の枠外にあった。そのため、2 年目の 2020 年度においては、「特別の課程」という履修証明制度を活用し、プログラムを行うこととなった。「特別の課程」とは、学校教育法第 83 条の規定に則っており、大学等の教育・研究資源を活かし、一定の教育計画の下に編成された、体系的な知識・技術等の習得をめざす教育プログラム（履修

証明制度）である。

話題提供では、「特別の課程」の導入過程とともに、実際の実践事例を通して、履修証明制度を活かすことの意味について提起する。

### 【話題提供 3】

#### 「見晴台学園大学での実践研究」 寺谷直輝

先駆的に知的障害青年に対する大学教育の可能性を実践から提起している見晴台学園大学での実践のうち、2020 年度に 2 名が取り組んだ卒業論文の作成とその指導を取り上げる。まず、今日における知的障害青年の教育・学習システムを整理し、その中での見晴台学園大学の位置を明確にする。つぎに、見晴台学園大学を含めた法定外大学の設置状況と多様な経営母体（株式会社・一般社団法人等）で構成されていることを確認し、その上で、見晴台学園大学の役割とミッションを、特別支援学校高等部と一条校の大学との関係性から明らかにする。

以上を踏まえて、2020 年度における卒業論文の概要および、学生が書いた卒業論文を手がかりとして、学生が卒業論文の作成を通じて得た学びと、一条校の大学、特別支援学校、見晴台学園大学それぞれの今後の課題を提示する。

### 【指定討論】

#### 田中良三

企画趣旨で述べた「有識者会議報告書」＝政策文書では、「我が国においては、知的障害者等の大学在籍者は少数であり、一部の大学において、一部の研究者を中心にオープンカレッジや公開講座を活用した多様な学びの機会を提供している例がある。」と述べている。このことによって、オープンカレッジ等が障害者の生涯学習政策の一環として、また、知的障害者の大学への多様な受け入れの一つとして着目されるようになった。また、2020 年度からは、大学の「履修証明制度」による知的障害者の受け入れが推奨されるようになった。

しかし、わが国における知的障害者の大学への受け入れは、高等教育政策としてではなく、障害者の生涯学習政策の一環として始まったばかりであり、知的障害者を対象とする大学教育研究も同様である。今後、希望する知的障害者の興味・関心等に基づいた大学での多様な実践＝教育形態の創出と研究が求められる。

### （文献）

1. 文部科学省『障がいのある学生の就学支援に関する検討会報告』第一次まとめ(2012 年 12 月)・第二次まとめ(2017 年 4 月)
2. 文部科学省・有識者会議報告書『障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―（報告）』2019 年 3 月

(TANAKA Ryouzo, YUASA Takamasa, KYOU Syunsuke  
AKAGI Kazushige TERATANI Naoki)